

郷土資料館だより

Vol.35 No.2
2012.12.1

企画展示室 収蔵品紹介「災害の記録」報告

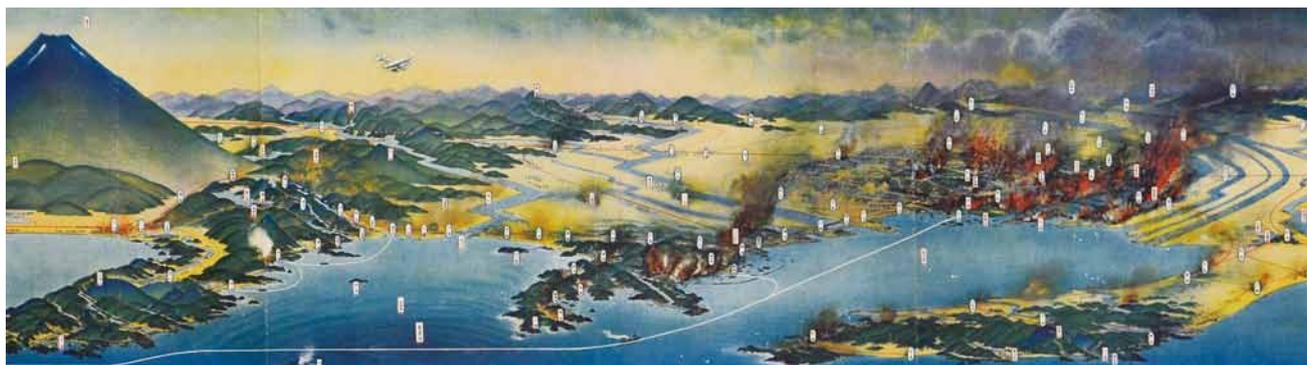
- 開催期間 平成24年7月28日(土)～9月9日(日)
- 展示資料数 80点 ●入場者数 6,416人

東日本大震災から1年余りが経過し、被災地の復興と同時にそれぞれの地域における防災対策がまちづくりの重要な課題になっている状況を受け、災害に関する収蔵資料を中心とした展示を行いました。

展示の概要は以下の通りです

1. 地震 (1) 導入：富士山の火山弾、伊豆半島で採取された化石 など
(2) 元禄地震：「元禄地震に関する覚書」、『大地震暦年考』
(3) 安政地震：『安政見聞録』、「大地震記録」、「宿内道橋破損箇所附帳」など
(4) 関東大震災：「関東震災全地域鳥瞰図絵」、復興記念メダル など
(5) 北伊豆震災：写真・絵葉書、復興記念メダル、新聞 など
2. 水害 狩野川台風、七夕豪雨、平成2年集中豪雨 写真パネル など
3. 用水不足 慶応3年小浜用水水論関連資料 など
4. 火災 「拝借金目録」(三島宿文書)、消防手甲・法被、トビ口、半鐘 など
5. 防災 県・市作成各種防災マップ
6. 古文書に残る様々な災害 中村 年貢割付帳
7. 東日本大震災関連 被災状況、文化財レスキュー活動写真パネル

平成20年にも「三島を襲った災害」と題した企画展を実施しており、今回の出展資料にもこのときのものも多く含まれることとなってしまいました。大きな違いとしては、東日本大震災関連、とくに文化財レスキューに関わる写真を展示したことです。被災文化財の救出については多くの課題が提出されており、資料館としても非常時における収蔵品の一時保管場所の確保、他館との連携、収蔵品データの整備と安全性の確保、活動に携わる人的資源の確保など考えておくべきことが多くあります。地域や地域で暮らす人々の記憶である文化財を守ることは災害からのまちの復興に貢献することだと考え、少しずつでも対策を取っていくようにしていきます。



『関東震災全地域鳥瞰図絵』(大正13年 吉田初三郎 著、一部分)

郷土教室・郷土資料館ボランティアの活動

郷土資料館では、毎月子ども向け体験メニュー「郷土教室」を開催し、ボランティアスタッフと一緒に活動しています。



顕微鏡を使った三島溶岩流観察



裂織り体験



「古代の生活」体験で火起こし



ブンブンごま作り



天秤ばかりの体験

7月8日(日)は「楽寿園の自然」として、葉っぱを使ったモバイル作り、三島溶岩流の顕微鏡観察などを行いました。肉眼では見えない溶岩の内部を観察でき、子どもだけでなく大人にも楽しんでいただきました。

8月3日(金)は「夏休み体験デー」として、昔のあそび体験や機織り体験を行いました。資料館2階に展示してある機織り機を使い、古くなった着物を細く裂いて再び布地に織る「裂織り」を体験した子どもたちは、初めての機織り体験に大喜び。「またやりたい!」という声が多く聞かれました。

8月12日(日)、22日(水)は「古代の生活」体験を行いました。5月に続き大好評のプログラムです。小さなお子さんには難しい火起こしですが、大人に手伝ってもらいながらみんな真剣に取り組み、火が起きると大歓声があがりました。

9月9日(日)は「昔のあそび」体験を行いました。割り箸鉄砲作り、ブンブンごま作り、缶ポックリ、こま、けん玉などで遊びました。懐かしい昭和のあそびに親子で楽しみ、作った鉄砲やブンブンごまを大切に持って帰る子どもたちの笑顔に、スタッフの心も和む一日となりました。

10月14日(日)は「むかしの道具」体験として石臼、足踏み式ミシン、棹ばかり、天秤ばかりを実際に使ってみました。初めて使う道具に子ども達は興味津々の様子で、昔の人びとの知恵や工夫に感心していました。

資料館閉館中も体験プログラムは開催しています。日程や内容などはホームページ等でご確認頂くか、資料館までお問い合わせください。

ふるさと講座「駿東・伊豆の古墳探訪」報告

- **開催日時** 平成24年9月13日(木) 午前9時～午後2時30分
- **講師** 沼津市教育委員会文化振興課学芸員高尾好之さん、三島市郷土資料館長
- **見学地** 沼津市内の古墳3カ所（高尾山古墳・長塚古墳・神明塚古墳）、沼津市明治資料館企画展「スルガの古墳」
- **参加者** 31人

今回の講座は、今年度から3カ年にわたり開催する古墳についての講座の第1回目で、沼津市内の古墳などを見学しました。

当日は天候にも恵まれ、市内外からあわせて31人という多くの方にご参加いただきました。残暑厳しい中ではありましたが、沼津市文化振興課学芸員高尾好之さんの案内のもと、多くの質問が出るなど、皆さんとても熱心に説明を聞いていました。参加者からは「身近に立派な古墳があることにビックリ。参考になりました」「古墳を見学するのは初めてだったので勉強になりました」「実際に古墳の周りや上を歩くことができよかったです」など大変好評でした。来年度は、三島市内や長泉町の古墳を巡る講座を実施する予定です。



高尾山古墳



沼津市明治資料館

「ふじのくに子ども芸術大学」報告

第一線で活躍する芸術家との交流を通じ、優れた文化芸術に出会い、身近に親しむ機会を提供するために静岡県が実施する「ふじのくに子ども芸術大学」において、郷土資料館では、小学4～6年生を対象に「びっくり・ヒカリ・モノツクリ」と題して、光を素材とした体験講座を実施しました。

- **開催日時** 〈第1回〉平成24年7月21日(土)「残像現象やアニメーションの世界に触れる」
〈第2回〉平成24年8月26日(日)「ヒカリの反射であそぶ」
〈第3回〉平成24年9月8日(土)「ヒカリのあたり方で現れる影造形に挑戦」
- **講師** メディアアーティスト 伊藤尚未さん（三島市在住）
- **参加者** 〈第1回〉9人 〈第2回〉9人 〈第3回〉7人



〈第1回〉アニメーションの仕組みについて学ぶ様子

〈第2回〉鏡に光を反射させ、壁面に光の絵を映し出す様子



〈第3回〉小さなチップを設置し、影造形を映し出す様子

「郷土資料館入館者300万人達成記念セレモニー」開催

郷土資料館は昭和46年10月6日に開館しましたが、おかげさまで平成24年9月15日(土)で入館者数が300万人に達しました。これを記念してセレモニーを開催しました。300万人目となった市内徳倉の小磯さんご夫婦と孫の渡辺琉斗くんには「300万人証明書」と地元野菜を使った焼き菓子の詰め合わせや郷土資料館オリジナルの絵はがきなどを贈りました。

小磯さんは「楽寿園には毎週のように来ている。記念の達成者となり、貴重な体験をさせてもらった。大変うれしい」と話されていました。



郷土資料館運営協議会視察

- **と き** 平成24年8月10日(金)
- **視察先** 浜松市博物館、遠江国分寺跡、磐田市埋蔵文化財センター

郷土資料館運営協議会では、委員の研鑽と先進館の事例研究を兼ねて毎年研修視察を行っています。以下は、迫田委員長からの研修視察報告です。

今年度は盛夏の8月10日、浜松・磐田両市の文化財展示施設を訪問しました。

浜松市博物館

1979年に開館した建物が30年を経過し、展示手法の陳腐化、展示室の内装の老朽化が目立つことから、5千万円の予算でリニューアルを図り、2011年3月19日にオープン。今後の10年間を見据えた展示内容の充実、展示資料を落ち着いた見られるように工夫したレイアウト、さらに今後も一部内容を改善しやすい展示室の実現などを目指したとのことであった。

確かに、以前視察した際の雑然としたイメージが一新されており、中でも

- ① 展示室の内装がモノトーンに統一され、LED照明の落ち着いた雰囲気であること
 - ② 館長以下6名の学芸員が一つずつ展示ケースを担当、専門分野を生かした個性的展示を実現したこと
 - ③ 床面の導線に「足跡マーク」を採用、ナウマン象～イノシシ～弥生人～ワラジと進みながら、順に原始～現代の展示が辿れること
 - ④ 建物の耐震補強の必要が無かったため、全予算を展示スペースのリニューアルに使えたこと
- などの説明が印象に残った。

遠江国分寺跡

国指定特別史跡(1952)、広大な国分寺跡の一角にある一辺18mの基壇が、在りし日の七重塔の偉容を偲ばせる。復元建造物は無く、公園的整備も殆どされていない。

磐田市埋蔵文化財センター

1987年開所。市立図書館に隣接した鉄筋コンクリート二階建ての立派な建物。市の文化財課が単独で入っており、市内で発掘された様々な埋蔵文化財を中心に、収蔵・保管・調査研究を行っている。一階には展示スペースもあり、入館は無料。

今回視察した両市とも、文化財の調査・研究・公開展示に対する財政的支援が行き届いており、羨望の思いを禁じませんでした。

(委員長/迫田信行)

浜松市博物館 常設展示室



伊豆半島ジオパーク構想 Vol.6

今回と次回は、三島市街地の表層近くに堆積する「御殿場泥流」の説明をします。

富士山は活動を始めてから約10万年しか経っていません。約40～50万年の齢を重ねた箱根山や愛鷹山に比べ非常に若い火山です。

富士山の活動の中心（火道）は、三島溶岩（約1.7～1万年前）を流出する前まで、現在の山頂の東側にありました（古富士火山）。そのため約1万前から山体大崩壊が起きる2.9千年前までの間は頂が2つあったと考えられています。

短期間に成長した富士山は非常に不安定で大規模な山体崩壊を繰り返しています。東麓では約2.4～2.0万年前、約1.5～1.4万年前、約2.9千年前の3回が確認されています。

約2.9千年前、地震の大きな揺れにより東側の頂が崩壊して（御殿場岩屑なだれ・岩石の大部分は古富士火山起源の玄武岩）、大規模な土石流（泥流）が発生し、御殿場市域全体を覆い、一部は黄瀬川谷を駆け下り三島溶岩露出地を除く三島市域や沼津市東部を覆いました。これが「御殿場泥流」です。

御殿場泥流層は、一昔前まで大場川や境川の谷の各所で観察できました。最近はコンクリートで覆われ、観察場所は限られています。

写真1は、上岩崎公園・鮎止め滝左岸の御殿場泥流です。1m近い玄武岩質の巨石（亜角礫）が認められます、上部層は二次堆積物です。

写真2は今夏、三嶋大社南西の伊伝ビル跡に作られた回転寿司の工事現場です。泥流層から1m大の巨石が多量に掘り出されました。泥流層の厚さは2m弱で、下部は砂層、上部層は御殿川によって浸食されています。

写真3は境川・清住緑地の崖です。下半が御殿場泥流です。上部層は二次堆積物です。

写真4は清住緑地南の「丸池」です。湧水を利用した溜め池を作るために御殿場泥流層を掘り下げましたが、大きな石は撤去されず放置され、池底には50～70cmの巨石が散在しています。源兵衛川「水の苑緑地」周辺の大きな転石群も御殿場泥流層を掘り下げ水路を作った時に残ったものです。

（増島 淳／三島市郷土資料館運営協議会委員）



写真1 鮎止め滝の御殿場泥流層



写真2 回転寿司工事現場の巨石群



写真3 清住緑地の御殿場泥流層



写真4 丸池に残る御殿場泥流の巨石

郷土資料館耐震補強事業（リニューアル）について

郷土資料館は、耐震補強及び改修工事のため、平成24年10月1日から全館休館となっています。リニューアルオープンは平成25年11月1日を予定しています。なお、休館中は三島市民生涯学習センターで収藏品展示を行う予定です。

※休館中は市役所中央町別館第5会議室が仮事務室となっています。ご不便をおかけしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

新規収蔵資料の紹介



新規収蔵資料として、3枚続きの浮世絵『源頼朝山木館夜討図』を購入しました。これは歌川国芳画で、嘉永年間頃の作とされています。頼朝は治承四年（1180）8月17日、反平氏の兵を挙げるにあたり伊豆の国における平家方の中心人物である山木兼隆の館を夜間に襲撃します。戦闘は激しく、頼朝方は夜明け近くによく兼隆を討ち取ることができました。

この絵を見ると、左端に戦闘に加わっていない頼朝が見え、右端には夜討の対象となった山木兼隆が弦の切れた弓を構えています。そして、その間には頼朝側として夜討に加わった加藤景廉、土肥実平、佐々木定綱らの佐々木兄弟などが配されています。完全武装の頼朝方と上半身裸の者も混じる兼隆側とが好対照をなし、不意を突いた夜討の緊迫感が感じられます。

（平成24年7月から11月の間には、資料の寄贈はありませんでした。）

【編集後記】 引っ越し作業も終わり、いよいよ工事が始まります。来年秋のリニューアルオープンに向け、みんなでがんばっていきます！

利用案内

- 〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
- 入館無料（但し、楽寿園入園の際に有料）

平成24年11月1日～平成25年10月31日まで耐震補強・リニューアル工事のため閉館しております。閉館中は右記仮設事務室までご連絡ください。

●三島駅（南口）から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.35 No.2（第104号）

発行日 平成24年（2012）12月1日
（年3回発行）

編集 三島市郷土資料館
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5
市役所中央町別館2階
TEL 055-971-8228
FAX 055-976-2735
（平成25年9月までの仮事務所となります。）

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>
発行 三島市教育委員会